

令和2年3月11日

# 東日本大震災から9年、東北港湾の今とこれから

表紙：整備が進む小名浜港東港地区

東北地方整備局港湾空港部

①震災からの復旧と災害対応力強化

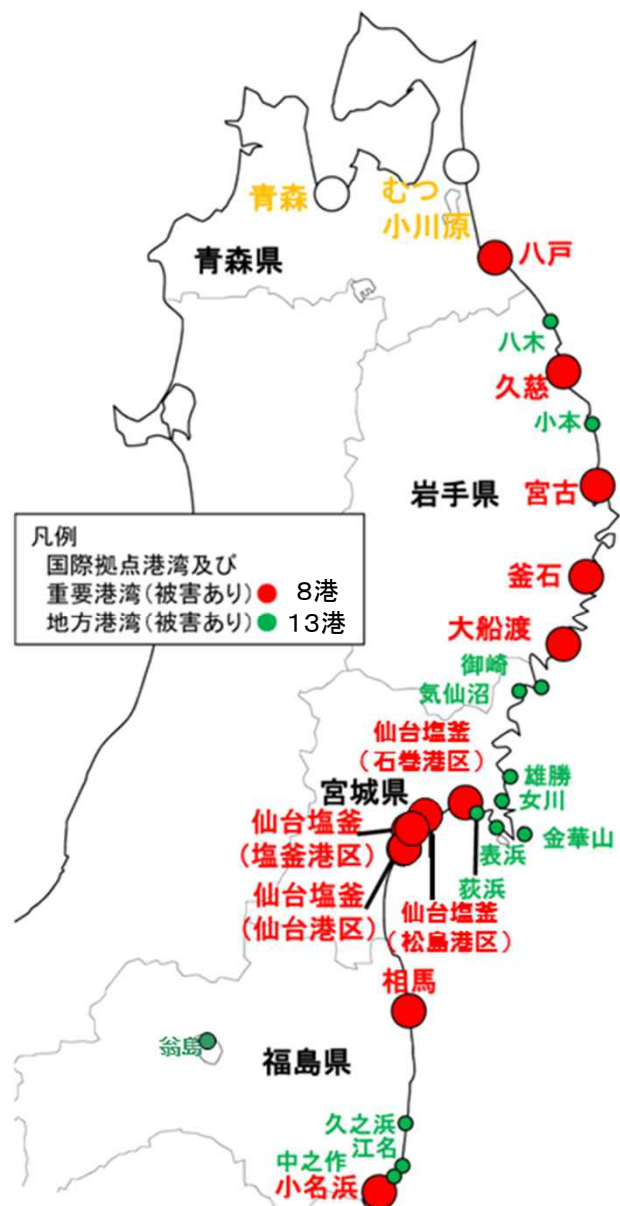
②着実な復興の実感

③東北港湾のステップアップへの取組み

①震災からの復旧と災害対応力強化  
～施設の着実な復旧と次の災害に備えて～

# 東日本大震災直後における港湾施設の被災状況

○東北太平洋沖地震・津波の地震動及び津波により、東北太平洋側の港湾施設が大きく被災し、一時は港湾機能が全て麻痺した。



**【八戸港】**

- ・防波堤転倒
- ・航路埋没
- ・護岸ケーソン倒壊

等

(中央部)  
八太郎地区北防波堤転倒・水没状況

**【久慈港】**

- ・波除堤上部コンクリート損壊
- ・臨港道路損傷
- ・護岸倒壊

等

半崎地区波除堤上部コンクリート全壊状況

**【宮古港】**

- ・防波堤損壊
- ・港内障害物(丸太・養殖関連施設)
- ・岸壁エプロン陥没

等

港内浮遊物状況

**【釜石港】**

- ・湾口防波堤倒壊
- ・岸壁はらみ出し
- ・臨港道路表層アスファルトめくれ

等

湾口防波堤(北堤)堤頭部

**【大船渡港】**

- ・湾口防波堤倒壊
- ・岸壁上部コンクリート隆起
- ・岸壁荷捌き地沈下

等

湾口防波堤消失状況

**【仙台塩釜港(石巻港区)】**

- ・岸壁エプロン沈下
- ・臨港道路法肩部崩壊・流出
- ・穀物岸壁(民有)倒壊

等

雲雀野中央ふ頭岸壁(-13m)エプロン沈下・陥没状況

**【仙台塩釜港(塩釜港区)】**

- ・岸壁はらみ出し
- ・岸壁エプロン陥没
- ・港内障害物(自動車・養殖関連施設)

等

東ふ頭岸壁(-7.5m)陥没状況

**【仙台塩釜港(仙台港区)】**

- ・コンテナ散乱
- ・岸壁エプロン沈下
- ・港内障害物(コンテナ・自動車)

等

高砂コンテナターミナル岸壁エプロン沈下

**【相馬港】**

- ・防波堤倒壊
- ・岸壁倒壊・エプロン陥没
- ・多目的クレーン倒壊

等

沖防波堤傾斜状況

**【小名浜港】**

- ・岸壁はらみ出し・エプロン陥没
- ・ガントリークレーン損壊
- ・港内障害物(自動車)

等

航路障害物撤去(コンテナ)北地区航路・泊地

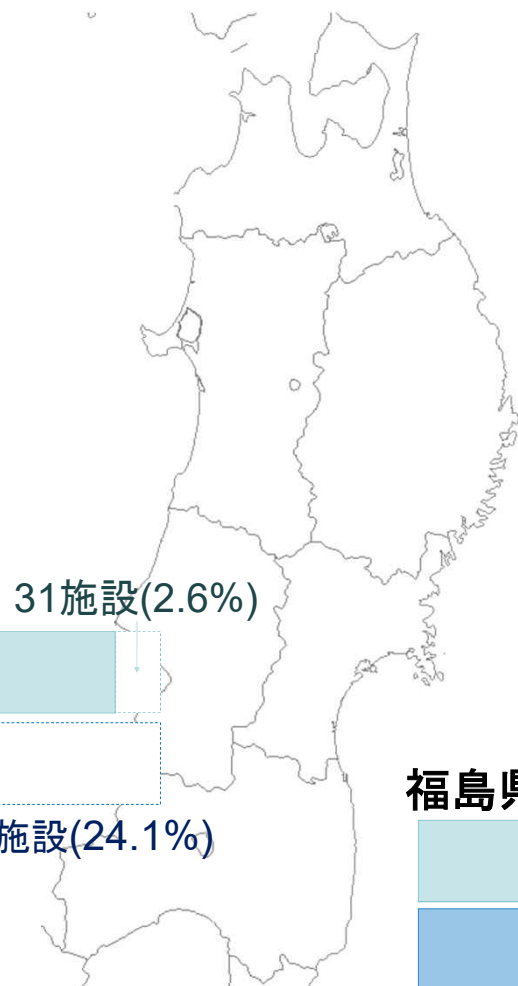
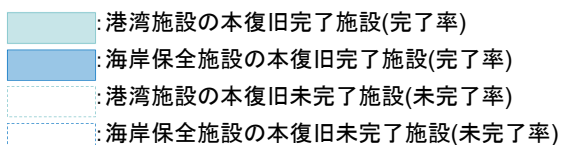
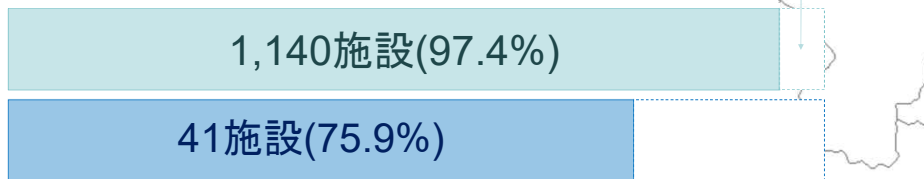
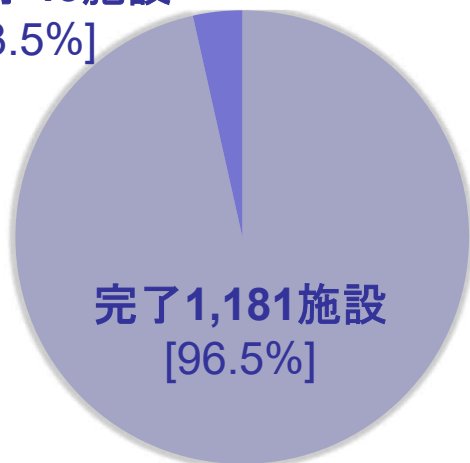
# 東北管内災害復旧状況(港湾・港湾海岸)

○災害復旧対象施設全1,224施設(港湾1,171施設、海岸53施設)のうち、令和元年度末迄に本復旧が完了する見込みの施設は1,181施設[96.5%](港湾1,140施設[97.4%]、海岸41施設[75.9%])。  
 ○令和元年度中に本復旧が完了しない43施設[3.5%](港湾31施設[2.6%]、海岸12施設[24.1%])については、令和2年度内に完了する見込み。

※[ ]書きは完了及び未完了率。  
 ※災害復旧対象施設のほか廃工19施設がある。

## 東北管内 計

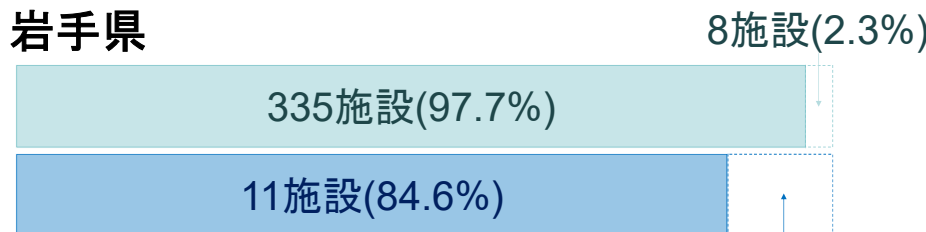
未完了43施設  
[3.5%]



## 青森県



## 岩手県



## 宮城県



8施設(2.3%)  
23施設(5.2%)

## 福島県



○直轄港湾災害復旧事業は、相馬港沖防波堤及び釜石港湾口防波堤の完了により、全106施設の復旧が完了。

## ◆東北管内港湾における復旧事業の進捗状況

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
直轄事業で復旧を行う主要な港湾施設 (大規模に被災した防波堤を除く)	→			25年度末 復旧完了				
大船渡港 湾口防波堤	→						28年度末 復旧完了	
相馬港 沖防波堤 釜石港 湾口防波堤	→							29年度末 復旧完了

■相馬港沖防波堤(平成30年3月15日完了)



■釜石港湾口防波堤(平成30年3月28日完了)



# 災害対応能力強化に向けた取組み

- 震災を教訓に、大規模災害時においても一定の港湾機能を維持するとともに、全ての港湾サービスを早期に回復するため、港湾関係行政機関及び民間事業者等と連携し、港湾機能継続計画(港湾BCP)を東北の主要な14港湾で策定(平成26年度)。
- 港湾BCPの実効性を高めるため、各港湾では、津波避難訓練をはじめ、災害協定締結団体と港湾施設の点検や航路啓開作業の手順確認など地震・津波防災訓練を行い、関係機関等との連携強化と災害対応能力の向上を図っている。

## ■地震・津波防災訓練

平成26年度より、大規模地震・津波を想定した防災訓練を各港で実施。

### 【実施港湾】

- 平成26年 岩手県 釜石港
- 平成27年 宮城県 仙台塩釜港(塩釜港区)
- 平成28年 福島県 小名浜港
- 平成29年 青森県 八戸港
- 平成30年 山形県 酒田港(※荒天によりリハーサルのみ実施)
- 令和元年 秋田県 秋田港(※台風18号接近により中止)

### 【訓練内容】・初動対応訓練

- ・被害状況把握と優先復旧施設決定訓練
- ・航路啓開・施設応急復旧訓練
- ・緊急物資輸送訓練 など

※写真は全てH29年八戸港のもの



係留施設の点検



港湾業務艇ナローマルチによる航路障害物調査



北陸地方整備局  
大型浚渫兼油回収船「白山」



起重機船による航路啓開



訓練参加者



被災状況の報告



緊急物資輸送

②着実な復興の実感  
～東北の元気はみなとの活気から～

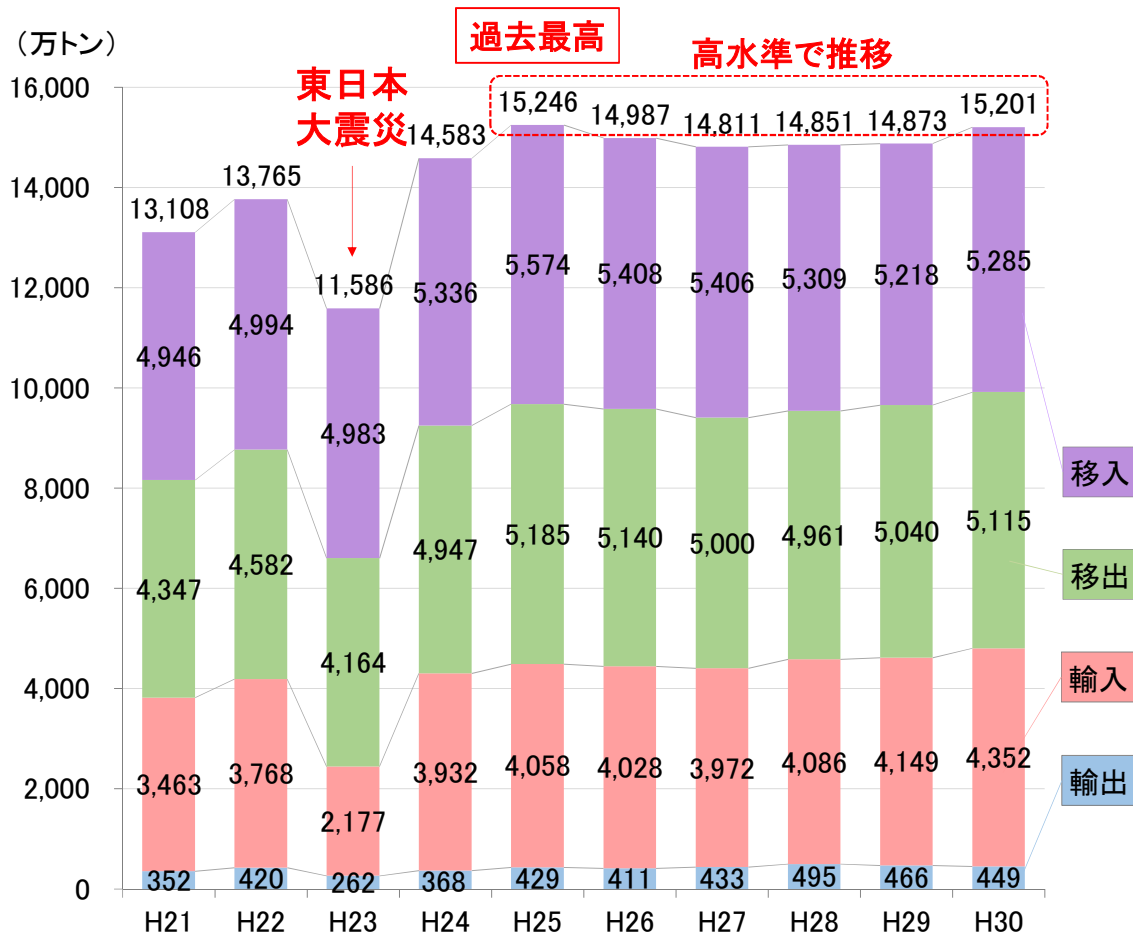
# 東北管内の港湾取扱貨物量について

○東北管内港湾の総取扱貨物量は東日本大震災の影響により平成23年は大きく減少したが、港湾施設の復旧に伴い、平成25年に過去最高を記録し、その後も震災前よりも高い水準で推移。

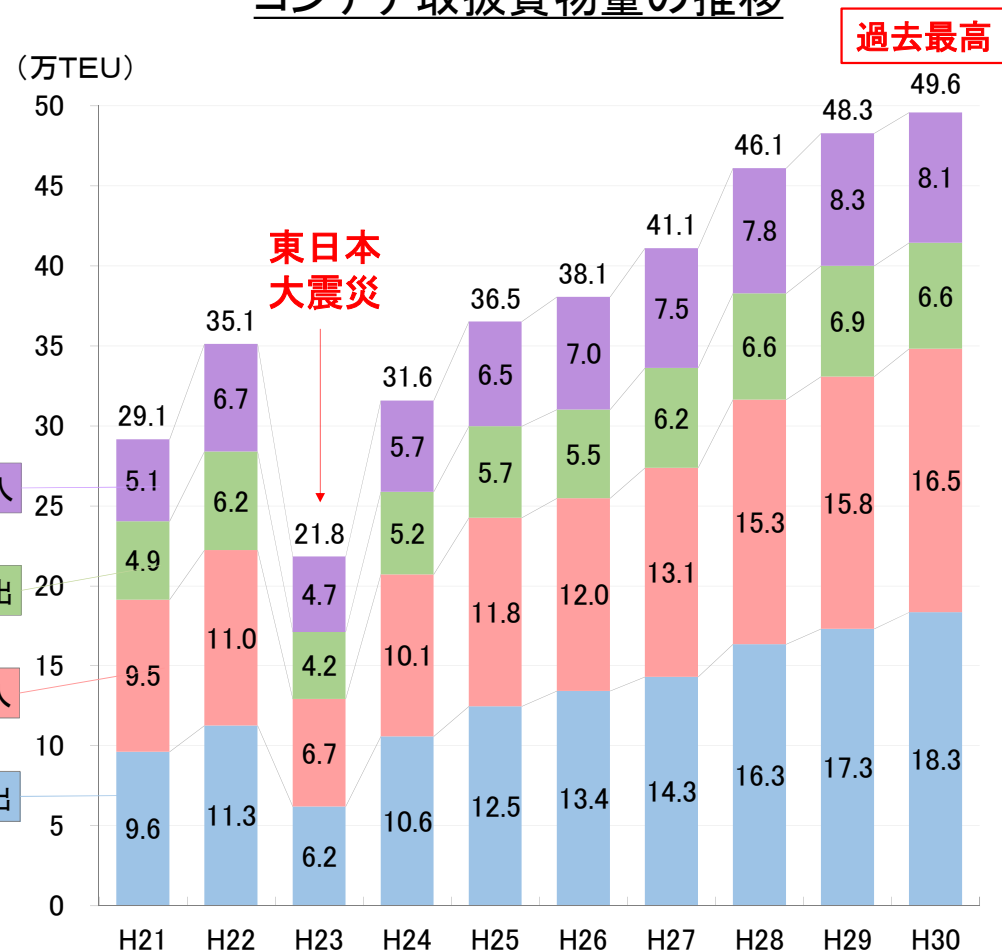
○コンテナ取扱貨物量は、平成25年から過去最高を更新し続けており、平成30年は約49万6千TEU(速報値)と管内全体としての過去最高を更新。

※地方港湾を含む全取扱貨物量

## 総取扱貨物量の推移



## コンテナ取扱貨物量の推移



出典：国土交通省 港湾調査 港湾統計(年報)より。  
H30貨物量については港湾管理者聞き取りによる。

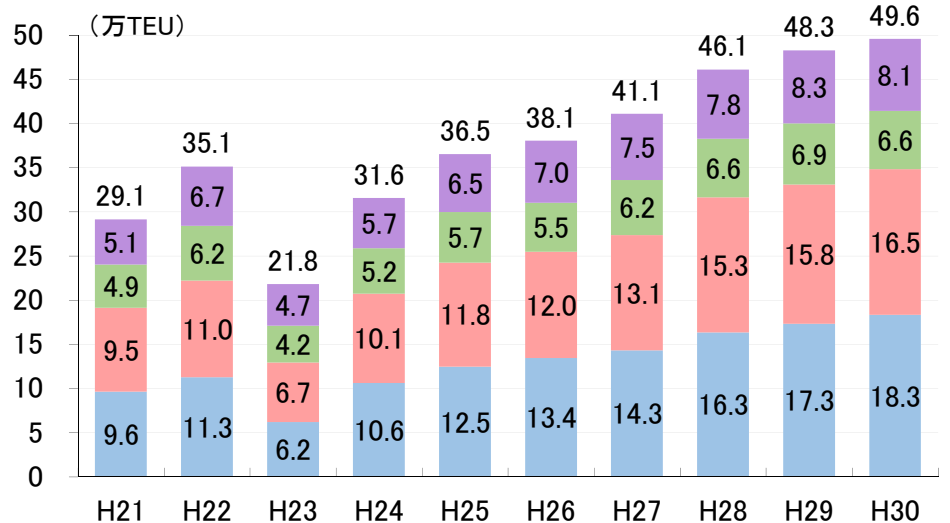


# 東北各港のコンテナ取扱貨物量の推移

○東北管内の平成30年コンテナ取扱貨物量は仙台塩釜港と釜石港で過去最高を記録。

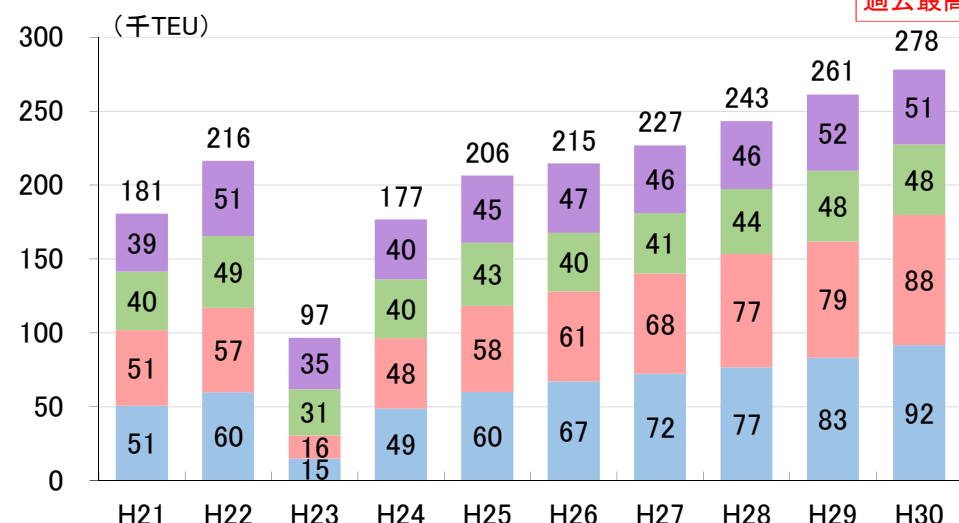
凡例 移入 移出 輸入 輸出

## ■ 東北全体(7港合計)



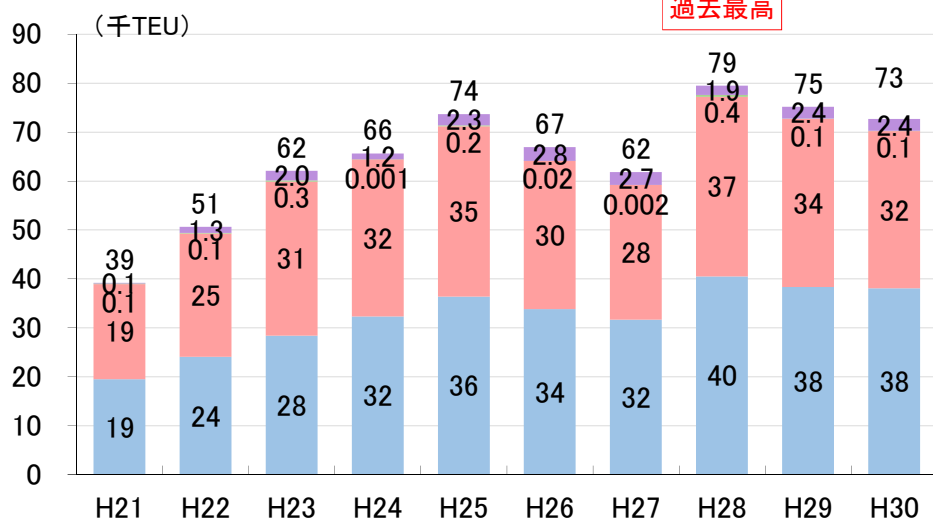
出典:国土交通省 港湾統計(年報)、港別集計値(速報)

## ■ 仙台塩釜港



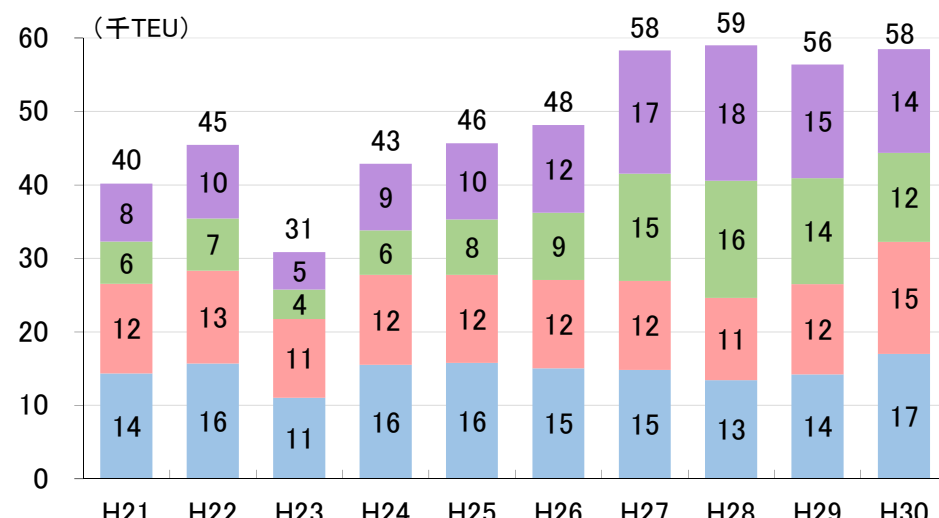
出典:国土交通省 港湾統計(年報)、港別集計値(速報)

## ■ 秋田港



出典:国土交通省 港湾統計(年報)、港別集計値(速報)

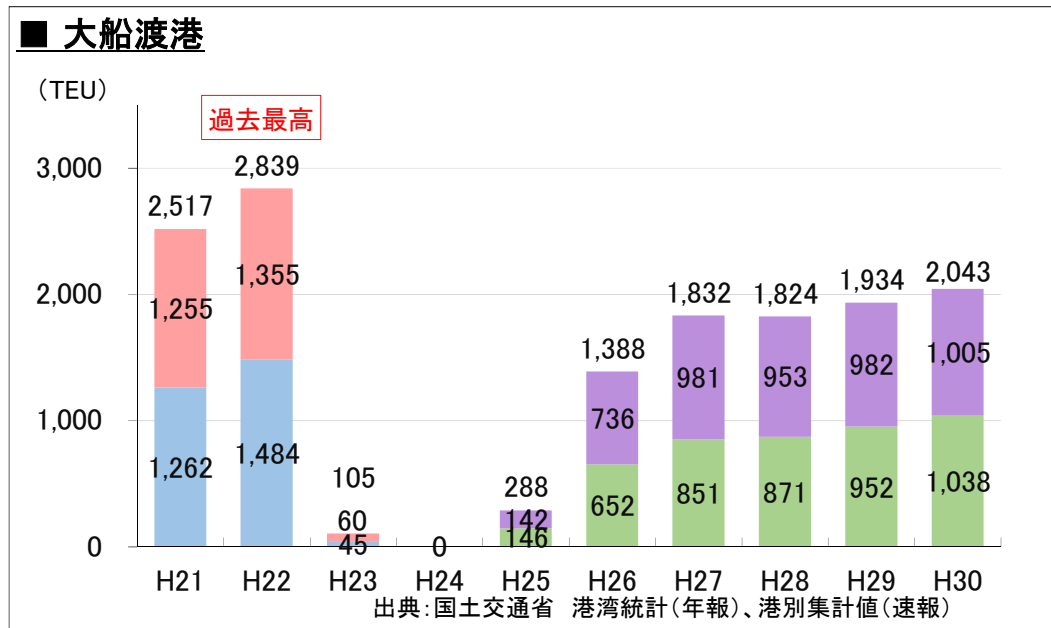
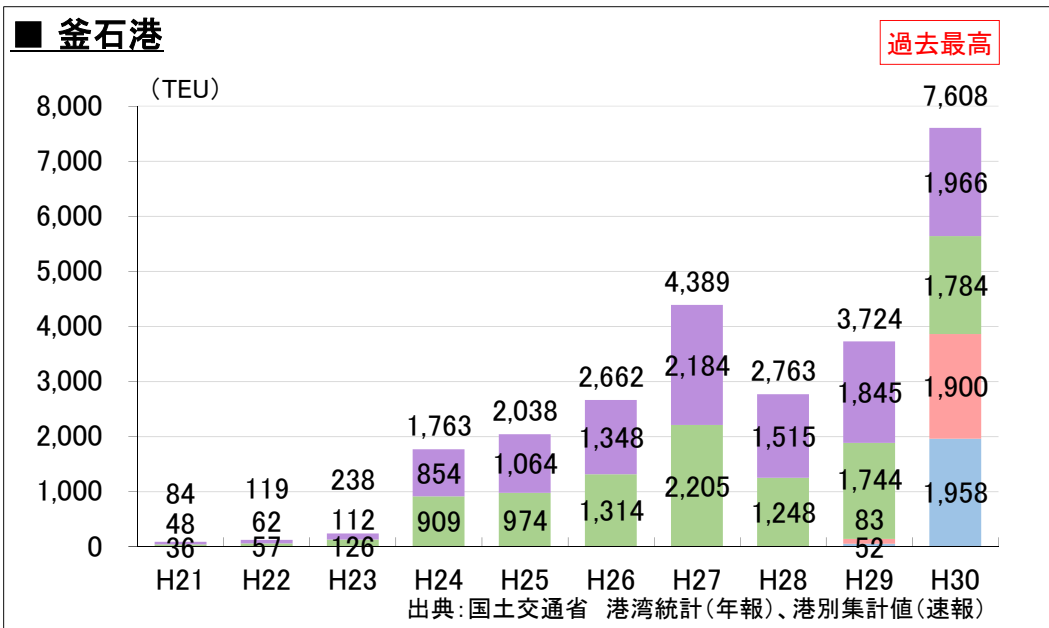
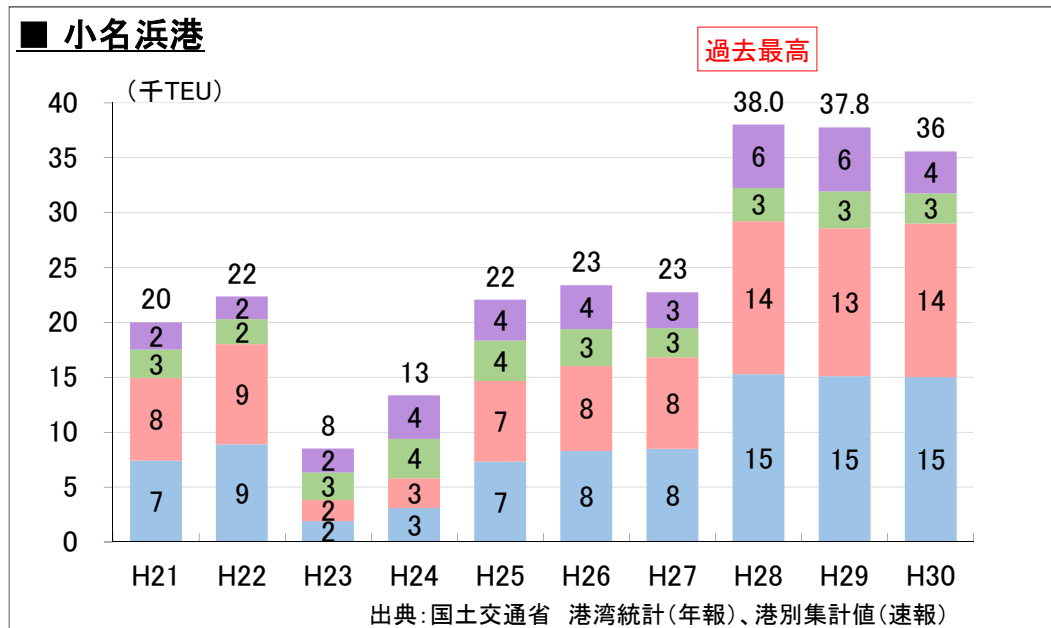
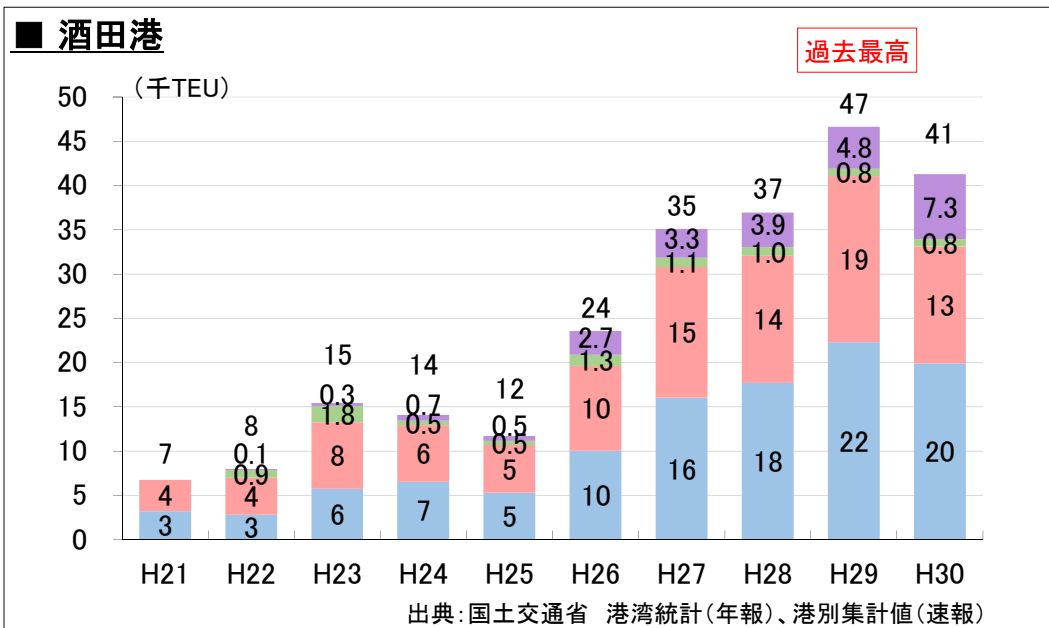
## ■ 八戸港



出典:国土交通省 港湾統計(年報)、港別集計値(速報)

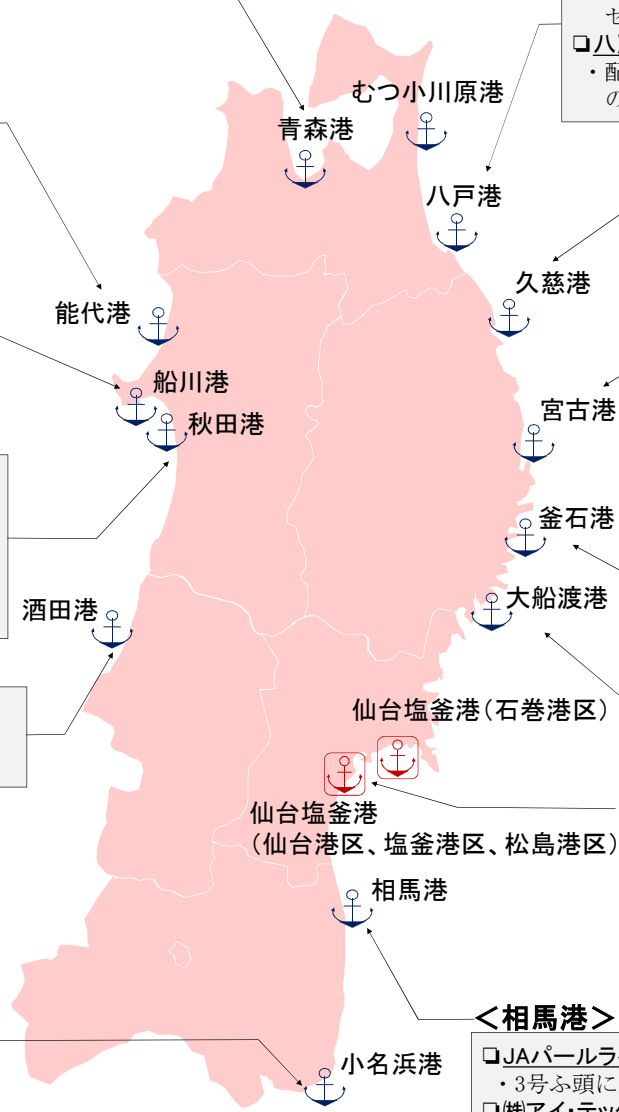
# 東北各港のコンテナ取扱貨物量の推移

凡例 ■ 移入 ■ 移出 ■ 輸入 ■ 輸出



# 港湾及び周辺における最近の企業立地状況(エネルギー関連除く)

2020年1月10日現在



## <青森港>

- 日本通運(株) 融雪剤製造用倉庫兼工場
  - ・青森市油川に倉庫兼工場を建設、H29.1操業開始。原料塩を輸入、製品化して北海道や北東北に供給。

## <能代港>

- (株)日立パワーソリューションズ
  - ・青森、秋田、山形の風力発電設備のメンテナンス拠点及び保守作業員の研修等に使用される能代サービスセンター・能代トレーニングをH29.1開設。
- 能代FRC有限責任事業組合
  - ・石炭灰を利用したFRC(フライッシュ・リサイクル・コンクリート)を製造するリサイクルセンターを建設、H27.10操業開始。

## <船川港>

- 秋田プライウッド(株) 男鹿工場
  - ・原木から合板まで一貫して製造できるよう工場を増設、H21.10操業開始。

## <秋田港>

- 秋田プライウッド(株) 向浜工場
  - ・H29.3、向浜第2工場で最新設備を導入し、合板生産能力を増強。
- TDK(株)
  - ・由利本荘市とにかほ市それぞれにスマートフォンや自動車向け電子部品を製造する新工場を建設、H28.10完成。

## <酒田港>

- 花王(株) 酒田工場
  - ・酒田工場では、H26.4より紙おむつ工場を新設し、H27.8に拡張。さらにH28.11、隣接する敷地内に新たな工場を増設。

## <小名浜港>

- (株)日本産業(一条工務店グループ) 小名浜物流センター
  - ・福島県内における住宅建材の物流拠点として、大剣ふ頭に物流倉庫を建設、H28.7操業開始。
- エリエールプロダクト(株)いわき工場
  - ・いわき市南台に紙おむつ等の生理用品を製造する工場を建設、H27.12から順次操業開始。
- (株)ドーム
  - ・スポーツ用品の配送拠点として、いわき市にDIB(ドームいわきベース)を建設、H28.5より操業開始。

## <八戸港>

- 北日本造船(株) 豊洲工場
  - ・ケルカタンカの受注増などを受け、ポートアイランドに新たな工場を建設、H28.7から操業開始。
- (株)上組 八戸定温物流センター
  - ・東北における食品貨物の取扱拡大を見込み、豊洲地区に低温・薫蒸機能を備えた物流センターを建設、H29.3から操業開始。
- 八戸臨港倉庫(株)&全農物流(株) 八戸低温薫蒸倉庫
  - ・配合飼料コンビナートや岸壁に近いなどの理由から、河原木地区へ輸入米や飼料米の保管、荷役などを行う物流倉庫を建設、H29.9竣工。

## <久慈港>

- 北日本造船(株) 久慈工場
  - ・H23年、津波リスク対応型の第2内業工場及び第5・第6研掃工場を新設。
  - ・H27年、第7・第8研掃工場をさらに増設。

## <宮古港>

- 川崎近海汽船株式会社 宮古支店
  - ・H30年6月、北海道室蘭港とフェリー航路を開設。※現在、休止中

## <釜石港>

- 日本通運(株)
  - ・岩手県沿岸地域の物流拠点として物流倉庫を建設、H28.7操業開始。
  - ・国際物流営業強化のため、保税倉庫指定及び通関営業をH29.9より開始。
- エアウォーター(株) 食品物流(株)
  - ・釜石地区の水産品等物流強化のため、低温倉庫を建設、H26.9操業開始。
  - ・水産品等の輸出促進のため、保税倉庫指定を受け、H29.8より操業開始。
- 福山通運(株)
  - ・釜石地域の輸送網構築のため、物流倉庫を建設、H28.3操業開始。

## <大船渡港>

- 大船渡湾冷凍水産加工業協同組合
  - ・H29年3月、共同利用冷蔵・冷凍施設等を整備。

## <仙台塩釜港>

- 大和ハウス工業(株) DPL仙台港
  - ・宮城野区の仙台港区近くに東北最大級のマルチテナント物流センターを開設、H29.3完成。
- センコー(株) 仙台港PDセンター
  - ・仙台港IC近くに、緊急避難施設としての機能も有する物流倉庫を建設H27.10完成。

## <相馬港>

- JAパールライン福島(株) 相馬港米低温倉庫
  - ・3号ふ頭に米保管用の低温倉庫を建設、H29.4より操業開始。
- (株)アイ・テック 鋼材加工工場
  - ・1号ふ頭背後へ東北や北陸などへの鋼材出荷拠点となる鋼材加工工場を建設、H30.6操業開始。
- (株)タケエイ
  - ・廃棄物処理・リサイクル業を主力とする企業であり、東北の拠点工場整備を計画。
  - ・エム・セック相馬工場跡地の用地をH29.6.30取得。

## <凡例>

- 立地・建設済(稼働中)
- 立地・建設予定(計画・建設中)
- ⚓ : 国際拠点港湾
- ⚓ : 重要港湾

※新聞情報等より作成

# 東北管内における最近の主なエネルギー関連プロジェクト(港湾関連)

2020年1月10日現在

## <能代港>

- ☐東北電力(株) 能代火力発電所
  - ・石炭火力発電3号機を建設中、2020年3月稼働予定
- ☐秋田洋上風力発電(丸紅(株)等)
  - ・港湾区域内に洋上風力発電施設21基を計画、2021~22年稼働予定
  - ・投資額: 約800億円(秋田港と併せて)

## <秋田港>

- ☐東部ガス(株) 秋田支社
  - ・LNG受入基地を建設、2015年12月稼働開始
  - ・八戸港LNG基地から年間2万5千トンの受給を予定
  - ・投資額: 約60億円
- ☐ユナイテッドリニューアブルエナジー(株)
  - ・パームヤシ殻等によるバイオマス発電を建設、2016年7月稼働開始
  - ・投資額: 約125億円、雇用: 約50人
- ☐SPC(丸紅(株)、関電エネルギーソリューション)
  - ・石炭火力発電を建設する計画、2024年稼働予定
  - ・投資額: 約3,000億円、雇用: 約500人
- ☐秋田洋上風力発電(丸紅等)
  - ・洋上風力発電事業者に決定13基建設を計画、2021年稼働予定
  - ・投資額: 約800億円(能代港と併せて)

## <酒田港>

- ☐サミット酒田パワー(株)
  - ・木質バイオマス発電所を建設、2018年8月稼働開始
  - ・投資額: 約200億円

## <八戸港>

- ☐JXエルエヌジーサービス(株) 八戸LNGターミナル
  - ・LNG輸入基地を建設、2015年4月稼働
  - ・北東北以北への供給拠点、釧路・秋田へ内航船で供給
  - ・投資額: 約500億円、雇用: 500人
- ☐東北電力(株) 八戸火力発電所
  - ・5号機の燃料を軽油からLNGに転換、2015年7月稼働開始
- ☐八戸バイオマス発電(住友林業(株)、住友大阪セメント(株)等)
  - ・バイオマス発電所を建設、2018年4月稼働開始
- ☐エム・ピー・エム王子エコエネルギー(株) 八戸エコエネルギー
  - ・石炭バイオマス混焼発電所を建設、2019年9月稼働開始
  - ・投資額: 約240億円

## <久慈港>

- ☐[実証フィールド]
  - ・東大研究所が開発する防波堤利用の波力発電装置を設置、2016年8月~実証運転を開始
  - ・漁業施設へ試験的に電力供給

## <大船渡港>

- ☐大船渡発電(株)
  - ・太平洋セメント(株)大船渡工場内に、石炭バイオマス火力発電を計画、2020年1月稼働開始
  - ・投資額: 約235億円

## <仙台塩釜港(石巻港区)>

- ☐日本製紙(株) 石巻工場
  - ・石炭バイオマス混焼火力発電を建設
  - ・2018年3月稼働開始
  - ・投資額: 約500億円、雇用: 約50人
- ☐住友商事(株)レノバ
  - ・木質ペレット等を燃料とするバイオマス発電所を計画、2022年稼働予定

## <仙台塩釜港(仙台港区)>

- ☐東北電力(株) 新仙台火力発電所
  - ・石油火力発電を廃止し、高効率なLNG火力発電にリプレース。3-1号は2015年8月、3-2号は2016年7月稼働開始
- ☐住友商事
  - ・バイオマス専焼火力発電を計画
  - ・2023年度9月稼働予定
- ☐SPC(株)レノバ、住友林業(株)等
  - ・防災集団移転跡地の区画整理された蒲生北部地区に木質ペレットやパームヤシ殻を燃やすバイオマス発電を計画、2023年稼働予定

## <相馬港>

- ☐石油資源開発(株)
  - ・LNG受入基地を建設、2018年3月稼働開始
  - ・東北地方への供給拠点、苫小牧へは内航船で供給
- ☐福島ガス発電(株)
  - ・LNG基地隣接地に高効率なLNG火力発電施設を計画
  - ・2020年稼働予定
  - ・投資額: 約1,800億円(基地+火力併せて)
- ☐相馬エネルギーパーク合同会社
  - ・木質バイオマスも含めた火力発電を計画
  - ・2018年4月運転開始
  - ・投資額: 約400億円

## <小名浜港>

- ☐常磐共同火力発電(株) 勿来発電所
  - ・最新鋭のIGCC石炭火力発電を計画、2020年9月稼働予定
  - ・燃料用石炭は小名浜港から陸送で供給
- ☐東京電力(株) 広野火力発電所
  - ・最新鋭のIGCC石炭火力発電を計画、2021年9月稼働予定
  - ・燃料用石炭は小名浜港から内航船で供給
  - ・投資額: 約3,000億円、雇用: 約2,000人
- ☐エア・ウォーター&エネルギー・パワー小名浜(株) (エア・ウォーター(株)、中国電力(株))
  - ・バイオマス発電を計画、2021年4月稼働予定
- ☐福島洋上風力発電コンソーシアム
  - ・経済産業省の委託事業として丸紅・三菱重工・東京大学等がコンソーシアム結成
  - ・浮体式洋上風力発電設備2基で実証運転中

## <凡例>

- ☐立地: 建設済(稼働中)
- ☐立地: 建設予定(計画・建設中)

- ⚓: 国際拠点港湾
- ⚓: 重要港湾

- ☐Coal: 石炭火力発電所
- ☐LNG: LNG基地・火力発電所
- ☐木質: バイオマス発電所
- ☐風車: 風力発電所
- ☐リサイクル: その他再生可能エネルギー

- ☐: LNG輸入基地(稼働中)
- ☐: LNG輸入基地(建設中)
- ☐: LNG2次基地
- : 主要ガスパイプライン

※新聞情報等より作成  
 ※パイプラインは東北経済産業局資料より  
 ※SPC...特別目的会社(special purpose company)

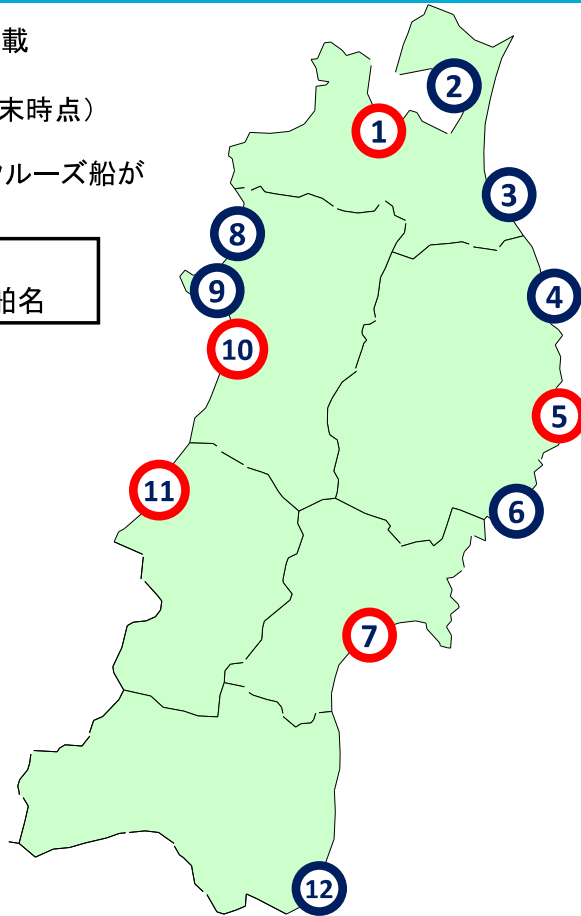


# 2019年 東北管内クルーズ船寄港実績

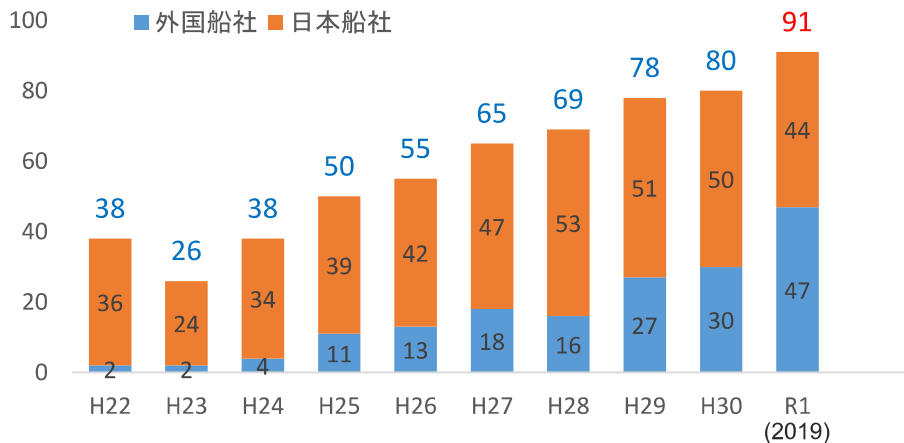
※ 寄港船舶名・寄港日を掲載  
 ※ 東北地方整備局調べ  
 (2019年12月末時点)

○ ……10万トン以上のクルーズ船が寄港可能な港

凡例  
 青字 : 外国船社船舶名



(隻) 東北管内港湾のクルーズ船寄港実績



①青森港 27隻	
セレブリティ・ミレニアム	
4月24日 (水)	
9月30日 (月)	
10月9日 (水)	
11月20日 (水)	
ダイヤモンド・プリンセス	
4月24日 (水)	
8月2日 (金)	
8月7日 (水)	
ウエステルダム	
4月26日 (金)	
シルバー・ミュージズ	
4月26日 (金)	
5月9日 (木)	
5月15日 (水)	
10月8日 (火)	
アザマラ・クエスト	
4月30日 (火)	
8月23日 (金)	
クイーン・エリザベス	
5月7日 (火)	
コスタ・セレーナ	
5月10日 (金)	
スター・レジェンド	
5月10日 (金)	
シーボーン・ソジャーナ	
5月19日 (日)	
カレドニアン・スカイ	
5月29日 (水)	
ル・ソレアル	
6月10日 (月)	
シルバー・エクスプローラー	
6月12日 (水)	
ばしふいっくびいなす	
6月17日 (月)	
6月19日 (水)	
8月4日 (日)	
にっぽん丸	
8月5日 (月)	
飛鳥Ⅱ	
8月6日 (火)	
8月25日 (日)	

②大湊港 1隻	
飛鳥Ⅱ	9月25日 (水)

③八戸港 3隻	
飛鳥Ⅱ	5月8日 (水)
にっぽん丸	9月17日 (火)
	9月19日 (木)

④久慈港 3隻	
にっぽん丸	5月4日 (土)
	7月12日 (金)
ばしふいっくびいなす	7月2日 (火)

⑤宮古港 5隻	
ダイヤモンド・プリンセス	
4月25日 (木)	
スター・レジェンド	
5月8日 (水)	
ばしふいっくびいなす	
7月4日 (木)	
にっぽん丸	
9月20日 (金)	
9月22日 (日)	

⑥大船渡港 2隻	
飛鳥Ⅱ	5月18日 (土)
ばしふいっくびいなす	9月22日 (日)

⑦仙台塩釜港 15隻	
*：石巻港区寄港	
ダイヤモンド・プリンセス	
4月12日 (金)*	
7月28日 (日)*	
セブンシーズ・マリナー	
4月29日 (月)	
オーシャンドリーム	
8月21日 (水)*	
ばしふいっくびいなす	
3月26日 (火)	
3月31日 (日)	
8月29日 (木)	
9月1日 (日)	
9月21日 (土)*	
11月5日 (火)	
飛鳥Ⅱ	
4月15日 (月)	
5月21日 (火)	
5月25日 (土)	
にっぽん丸	
7月19日 (金)	
7月23日 (火)	

⑧能代港 4隻	
ル・ソレアル	6月10日 (月)
シルバー・エクスプローラー	6月12日 (水)
にっぽん丸	6月23日 (日)
ばしふいっくびいなす	9月30日 (月)

⑨船川港 1隻	
飛鳥Ⅱ	8月5日 (月)

⑩秋田港 21隻	
アザマラ・クエスト	
4月17日 (水)	
5月1日 (水)	
8月24日 (土)	
9月7日 (土)	
クイーン・エリザベス	
4月22日 (月)	
MSCスプレンドイダ	
5月9日 (木)	
5月18日 (土)	
5月27日 (月)	
10月3日 (木)	
10月11日 (金)	
カレドニアン・スカイ	
5月30日 (木)	
ダイヤモンド・プリンセス	
8月6日 (火)	
セレブリティ・ミレニアム	
9月29日 (日)	
にっぽん丸	
7月6日 (土)	
7月8日 (月)	
8月4日 (日)	
ばしふいっくびいなす	
8月3日 (土)	
9月3日 (火)	
9月5日 (木)	
飛鳥Ⅱ	
8月5日 (月)	
9月6日 (金)	

⑪酒田港 8隻	
ダイヤモンド・プリンセス	
4月23日 (火)	
6月23日 (日)	
8月30日 (金)	
9月30日 (月)	
MSCスプレンドイダ	
9月16日 (月)	
ばしふいっくびいなす	
5月11日 (土)	
にっぽん丸	
7月9日 (火)	
7月11日 (木)	

⑫小名浜港 1隻	
飛鳥Ⅱ	4月16日 (火)

# 地域活性化に向けた取り組み(クルーズ船寄港による地域活性化)

○クルーズ船寄港の際に、経済効果だけでなく、賑わい創出やクルーズ乗船客との地域交流を目的に、地元伝統芸能や地元高校生による観光案内など、地元の方と交流できる趣向を凝らした“おもてなし”が喜ばれている。

<H30年 おもてなしの様子>



青森ねぶた祭の衣装着付け体験(青森)



折り紙体験コーナー(青森)



大漁旗による歓迎(大湊)



歓迎の大漁旗を贈呈(宮古)



和太鼓体験コーナー(宮古)



よさこい演舞による歓迎(石巻)



東北地方整備局職員による通訳ボランティア(石巻)



なまはげ太鼓によるお出迎え(秋田)



竿燈による歓迎(秋田)



料理長によるおもてなし(酒田)

<上質な寄港地観光プログラムツアー>



琴体験コーナー(酒田)



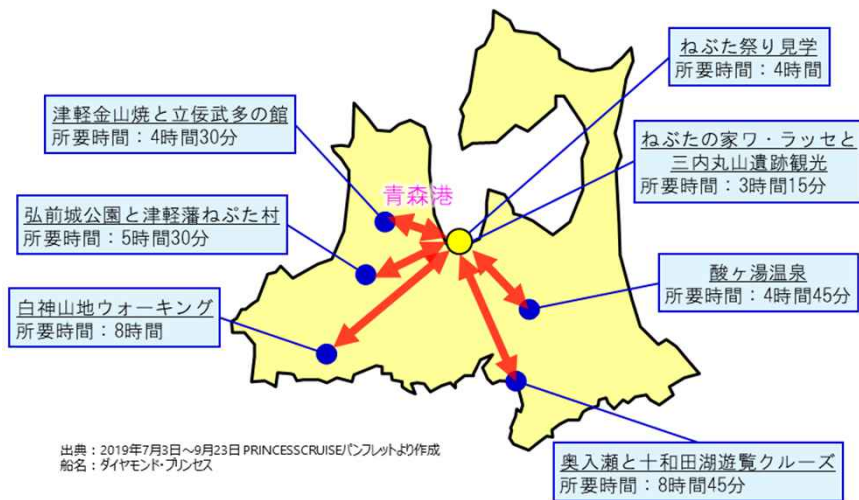
フラダンスによるお見送り(小名浜)

# ③東北港湾のステップアップへの取組み ～東北の未来に向けて～

# クルーズ船の受入時の取り組み<青森港>

- 青森港では、クルーズ船寄港が年々増加しており、令和元年は27隻が寄港。令和の年最初のクルーズ船寄港は、4月24日のセレブリティ・ミレニアムとダイヤモンド・プリンセスの2隻同時寄港。
- これに合わせ、青森県が整備をしていた青森港国際クルーズターミナルを供用開始。
- 同ターミナル完成により、税関・出国管理・検疫の手続時間が2時間短縮することができ、県内での観光時間が延びるため、さらなるインバウンド効果が期待される。

## オプションツアー例



平成31年4月24日 2隻同時寄港の様子



平成31年4月24日 青森港国際クルーズターミナル供用開始式典



青森港国際クルーズターミナル外観



ターミナル内での“おもてなし”



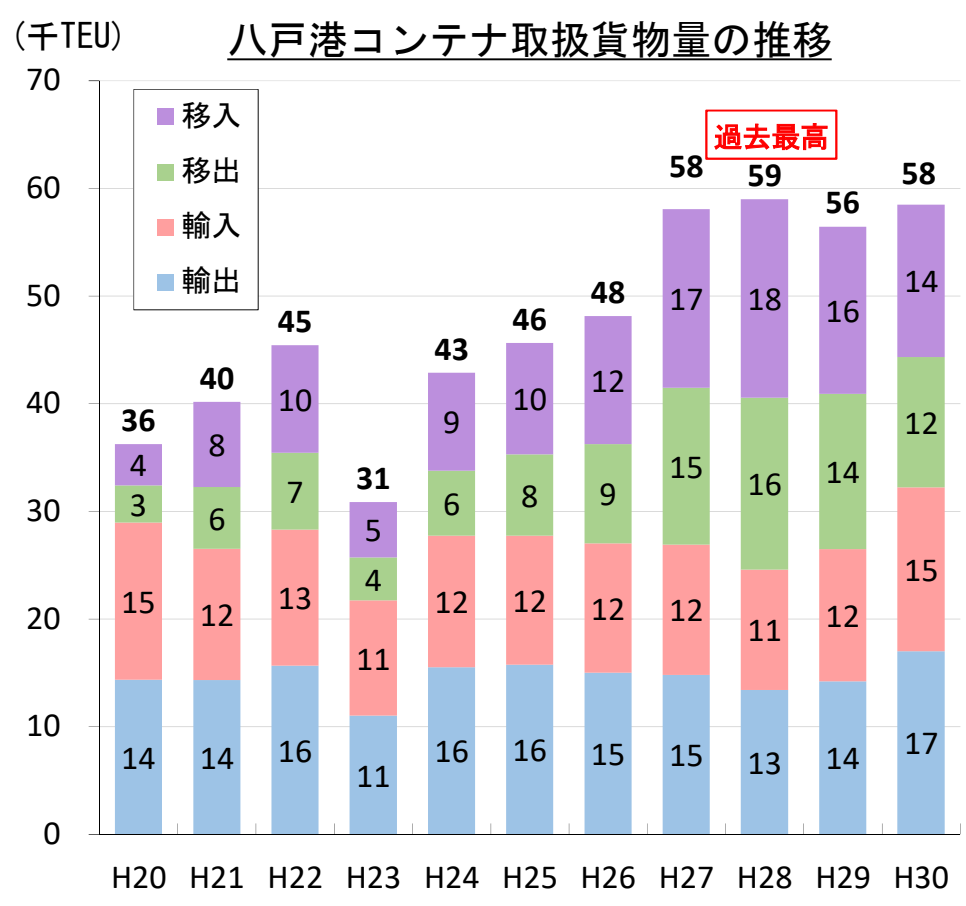
# 新たな産業立地を支える港湾整備の促進<むつ小川原港>

- むつ小川原港では、台風や低気圧により被災した東防波堤の災害復旧工事を実施中。
- また、民間事業者による洋上風力発電が計画されており、現地では東防波堤上に風況観測塔が設置され風況調査が行われている。
- 港湾背後では、日本最大規模の「風力発電施設」や「太陽光発電施設」が立地しており、再生可能エネルギー産業の集積も進みつつある。



# 地域経済を支える物流機能の強化<八戸港>

- 八戸港のコンテナ取扱貨物量は、液晶パネル等の生産装置などの精密機器や紙製品が堅調に推移し、平成30年は約58千TEUと高水準で推移。
- 青森県は、増加するコンテナ貨物需要に対応するため、コンテナヤードの拡張整備を実施し、平成30年10月に供用を開始。
- この拡張で、取扱能力が1.3倍(51千TEU→69千TEU)となり、併せてリーファーコンセントを107基に増設し、農水産品の輸出拡大にも対応するなど、港湾機能強化による物流の生産性向上に寄与。
- 平成29年から着工していた「八戸エコエネルギー発電所」が令和元年9月から操業を開始。発電能力は7.5万KWで、バイオマス発電としては国内最大規模。



出典：港湾統計(年報)より。ただしH30分については港湾管理者聞き取りによる。

# 地域経済を支える港湾整備の促進<久慈港>

- 久慈港湾口防波堤整備の進捗により、港内静穏度が大きく向上。これにより港湾背後地域の津波被害（浸水被害）が軽減されるとともに、荷役作業の安全性・効率性が向上。
- 港湾周辺では、発電所建設や工場増設が進み、大きな投資が誘発されるとともに新たな雇用創出効果が発現。



# 大型客船対応岸壁と復興道路で新たな観光振興<宮古港>

- 平成31年4月25日、岩手県で“初”となる10万トンを超えるクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が寄港。
- 令和2年は、さらに大きなクルーズ船「コスタ・ベネチア(135,225トン)」の寄港が予定されている。
- 現在、三陸沿岸道路と宮古盛岡横断道路の整備が進められており、全線開通すれば宮古港の寄港地観光エリアが拡大され、寄港地としての魅力向上が図られることから、今後益々のクルーズ船寄港拡大が見込まれる。



県内初の入港となる大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス(115,906トン)」



オプションルツアー一例



歓迎セレモニー(H31.4.25)



藤原地区岸壁(水深10m) L=185m

■宮古港フェリーターミナル  
平成30年6月1日完成。



# 防波堤復旧・港湾機能強化と道路との連携による地域経済の活性化<釜石港>

- 震災後の国際フィーダー定期航路開設とともに、湾口防波堤の復旧や港湾背後の復興支援道路等の整備進捗により、安全性・利便性が向上し、釜石港の利用企業やコンテナ貨物取扱量が増加。
- さらに、ガントリークレーンの設置やリーファーコンセントの増設で港湾機能が強化されるとともに、復興支援道路等の平成30年度全線開通による相乗効果で、地域経済の活性化に寄与している。
- 令和元年9月14日「みなとオアシス釜石」が登録され、さらなる地域経済の活性化に寄与している。
- 釜石港が「ポート・オブ・ザ・イヤー2019」を受賞。これを機に釜石港の認知度が向上し、「みなとの元気」とともに、地域経済の発展につながる事が期待される。

## □湾口防波堤復旧事業

<湾口防波堤の効果>  
・津波被害の軽減、港内静穏度の確保

平成30年3月28日 災害復旧完了



## □港湾利用企業の拡大

- ▼釜石港を利用する内陸部の主な企業
- ・製紙業(印刷用原紙・パルプ → 北米、韓国、中国)
  - ・飼料販売メーカー(牧草 → 北米)
  - ・ドラッグストア(プライベートブランド製品 → 中国)
  - ・ホームセンター(日用品 → 中国・韓国)
  - ・電気部品製造業(ワイヤー・ハーネス → ベトナム・フィリピン)



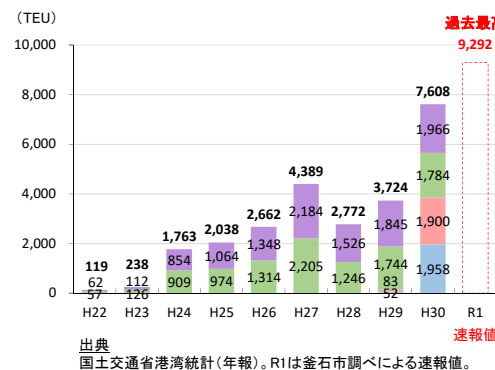
## □みなとオアシス釜石



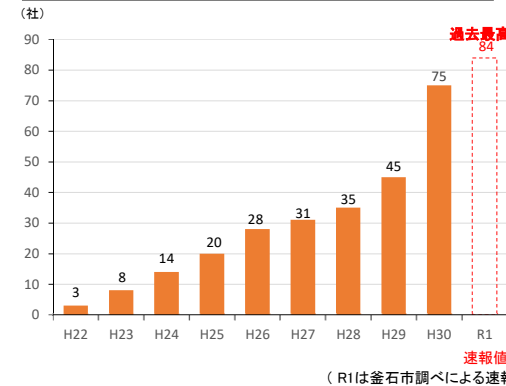
## □ポート・オブ・ザ・イヤー2019



## □コンテナ取扱量の推移



## □コンテナ利用企業数の推移



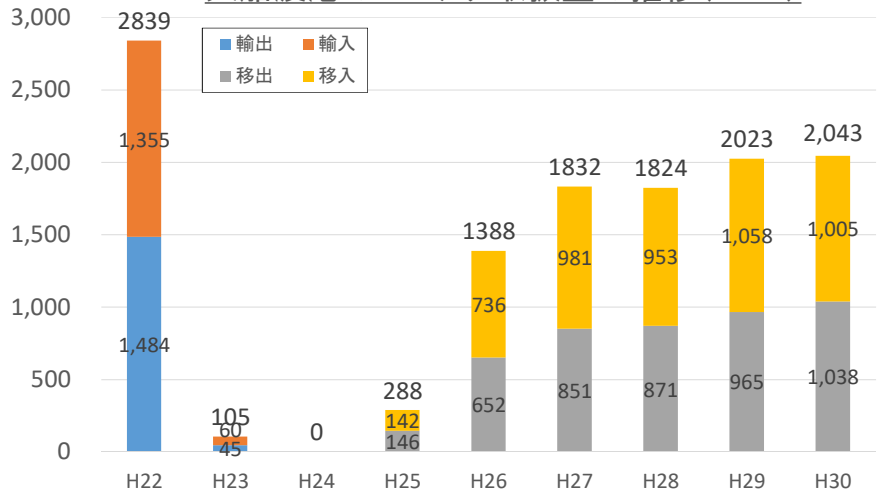
出典 国土交通省港湾統計(年報)。R1は釜石市調べによる速報値。

速報値 (R1は釜石市調べによる速報値)

# クルーズ船寄港等による地域の活性化<大船渡港>

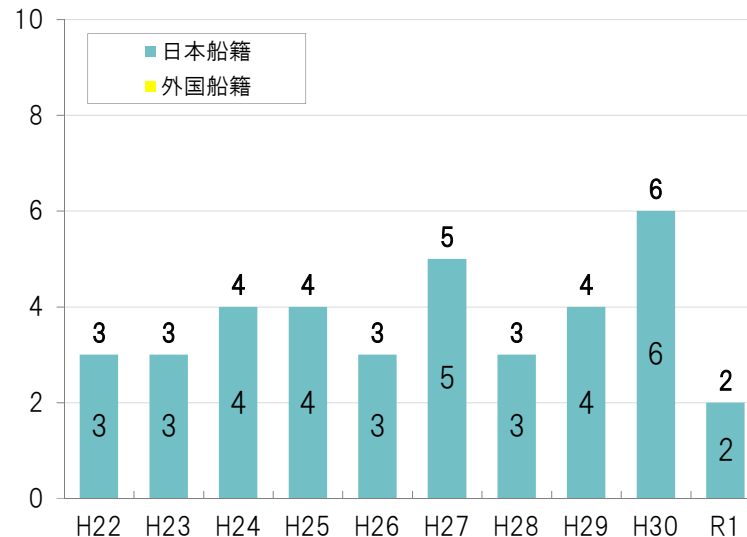
- 湾口防波堤の完成により港内静穏度が回復し、荷役作業の安全性・効率性が確保された。
- 平成25年に京浜港との間に国際フィーダー航路を開設され、北上地域を中心とした背後地域に立地する企業の製品等貨物を中心に取り扱っている。また、平成29年7月にコンテナ用上屋倉庫が完成・供用開始したことにより、小口貨物の一時保管及び積み込み・取り出し作業が可能となり、港湾の利便性が向上した。
- 大船渡港では、長年にわたる邦船社のクルーズ船入港実績があることから、これまでに寄港した邦船3社のクルーズ船に対して、「おおふなと特別観光大使」を委嘱。邦船クルーズ船が大船渡のPRに貢献している。
- 令和元年5月18日「みなとオアシスおおふなと」が登録され、地域経済の活性化に寄与している。

大船渡港のコンテナ取扱量の推移(TEU)



出典：港湾統計(年報)より。ただし、H30については港湾管理者聞き取りによる。

クルーズ船寄港実績(大船渡港)



飛鳥Ⅱ 特別観光大使委嘱H28.6  
(出典：大船渡市役所HPより)



港外側

港内側



大船渡港に完成したコンテナ用上屋倉庫(H29.10撮影)



みなとオアシス登録授与式 記念撮影



クルーズ船のおもてなし

完成した湾口防波堤

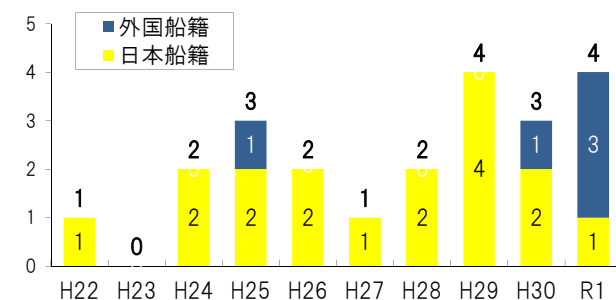
# 地域経済を支える港湾整備の推進<仙台塩釜港石巻港区>

- 仙台塩釜港石巻港区は、港湾背後に国内有数の製紙工場や木材加工工場などが立地し、原材料の輸移入や製品の輸移出を行う拠点として、地域経済を支える重要な役割を担っている。
- 防波堤整備により港内静穏度が向上し、荷役作業の安定性・効率性が改善してきており、港湾背後では、木質バイオマス発電所が建設されるなど、大きな投資の誘発や新たな雇用創出効果が発現している。
- また、水深の深い岸壁を有することから、地元の積極的なクルーズ船誘致活動により、平成30年に続き令和元年にも外国船社のクルーズ船が寄港するなど、地元観光産業等の振興に寄与している。

## ■石巻港区の防波堤整備状況と企業立地状況



仙台塩釜港(石巻港区)クルーズ船寄港数の推移

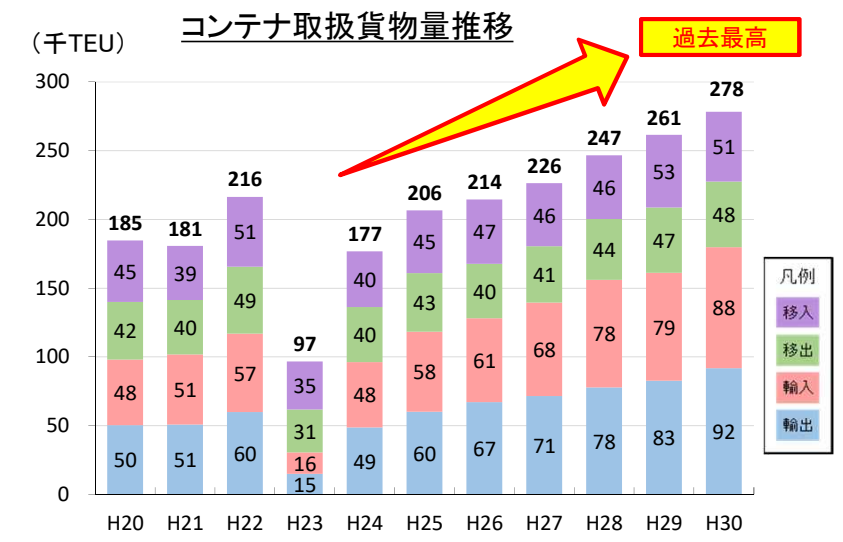


## ■クルーズ船寄港時のおもてなし



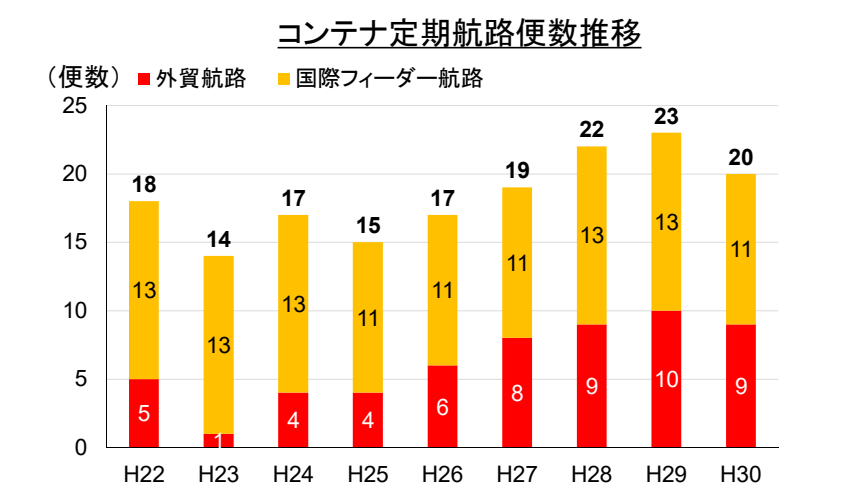
○高砂コンテナターミナルは、ダイレクト航路とともに京浜港への国際フィーダー航路の接続により、東北地域のグローバルネットワークの拠点港としての役割を果たしている。

○近年、コンテナ取扱量の増加に伴う岸壁延長の不足や、コンテナターミナルの狭隘さが課題となっていたことから、既存バースを延伸することにより、生産性の高い効率的なコンテナターミナルを形成する。



**岸壁不足による滞船及びターミナル混雑を解消する港湾整備**  
**【仙台塩釜港仙台港区ふ頭再編改良事業】(令和5年度末完了予定)**

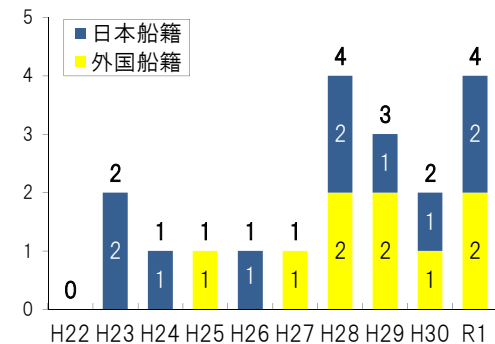
出典：港湾統計(年報)より。ただしH30分については港湾管理者聞き取りによる。





- 能代港内では、発電所が立地され、大量の石炭を輸入している。電力の需要増加への対応や安定供給を確保するために、新たに3号機を整備し、令和2年3月2日から営業運転を開始。
- また、秋田県沿岸部の一般海域において、大規模な洋上風力発電事業の計画があり、その基地港として有力視されている能代港では、風車の建設やメンテナンス時の投資に加え、新規雇用の創出が期待されている。
- さらに、クルーズ船の寄港時には、地元市民による歓迎セレモニーや、出港時の打ち上げ花火などのイベントを実施するなど、積極的なおもてなし活動も展開され、地元観光産業等の振興に寄与している。

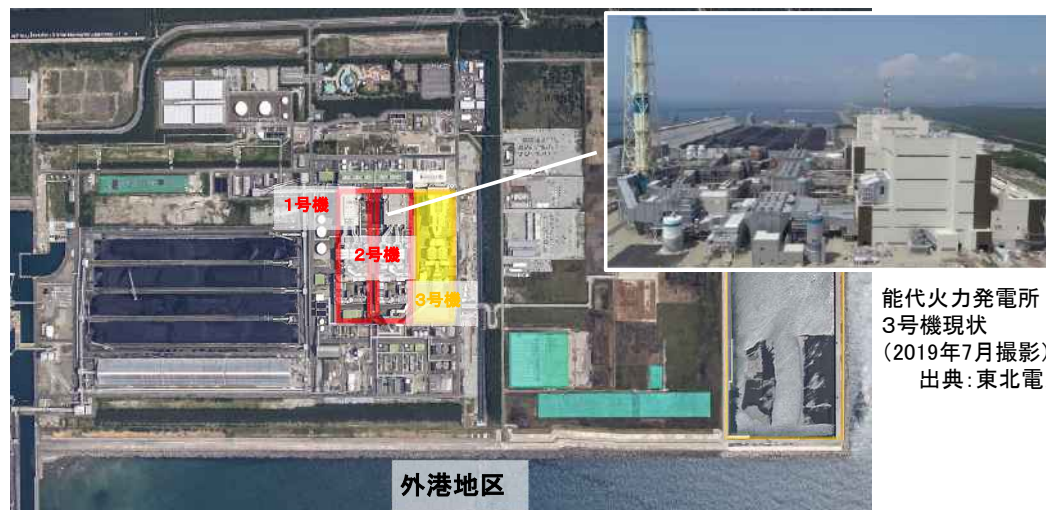
(隻) 能代港のクルーズ船寄港実績



能代港に荷揚された陸上風力発電の風車部品(大森-13m岸壁)



東北電力(株)能代火力発電所3号機



ロストラル能代港寄港状況(H30.5.27)



ぱしふいっくびいなす能代港寄港状況(H30.9.16)



市民によるお見送り



洋上風力エリアと基地港のイメージ図



(イメージ)洋上風力発電基地港 エスビアウ港(デンマーク)

# クルーズ船寄港等による地域の活性化<船川港>

- 平成29年、船川港では初となる外国客船“ブレーメン”が寄港。地元色豊かな多様な歓迎イベントが行われるなど、積極的なおもてなし活動が展開されている。
- “みなとオアシス船川”は、平成30年4月に複合観光施設「オガーレ」(7月オープン)の追加登録に合わせ、名称を“みなとオアシスおが”に変更※。施設周辺のJR男鹿駅が、オガーレ寄りに移転するなど、官民一体となった地域振興が図られている。※オガーレは“道の駅おが”にも認定
- 令和元年6月14日から半世紀ぶりに男鹿半島の定期遊覧船「シーバード」の運行が開始され、さらなる観光振興が期待されます。



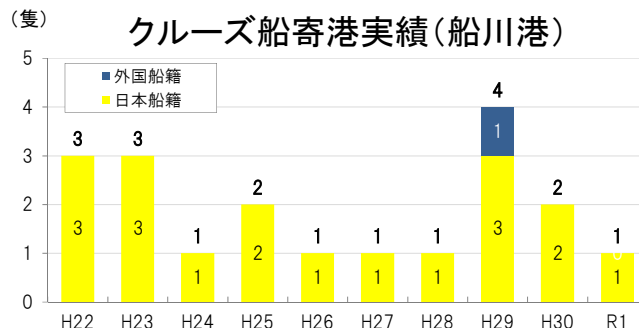
船川港を起点に就航する観光遊覧船「シーバード」



ナマハゲ太鼓に送られる「シーバード」



当港初となる外国客船“ブレーメン”(H29.5.20)



### 寄港実績

年度	寄港日	船名
H24	8月 5日(日)	飛鳥II
H25	8月 5日(月)	飛鳥II
	9月16日(月)	飛鳥II
H26	8月 5日(火)	飛鳥II
H27	8月 5日(水)	飛鳥II
H28	5月 4日(水)	にっぽん丸
	5月12日(金)	ぱしふいっくびいなす
	5月20日(土)	ブレーメン
H29	8月 5日(土)	飛鳥II
	9月 7日(木)	飛鳥II
	5月 2日(水)	にっぽん丸
H30	8月 5日(日)	飛鳥II
	8月 5日(月)	飛鳥II

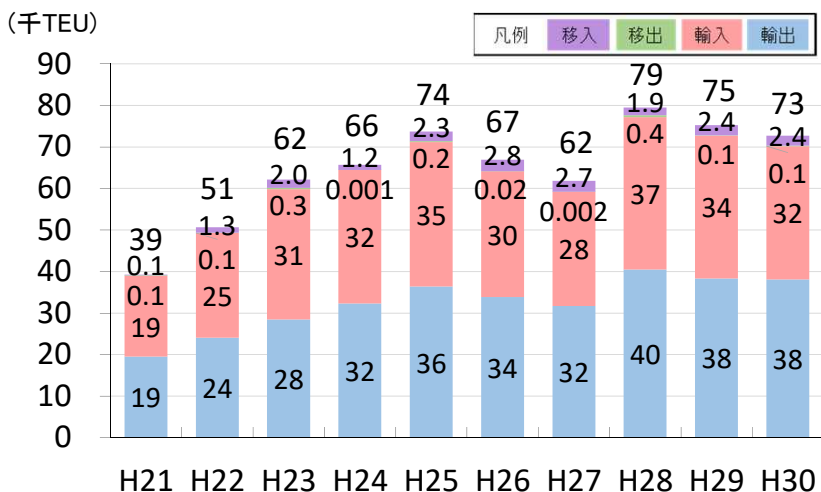
### 「みなとオアシスおが」施設位置図



# 地域経済を支える港湾整備の推進<秋田港>

- 秋田港では、外港地区において製紙企業の東南アジア向け輸出強化等により、コンテナ取扱貨物量が年々増加傾向にある。
- 秋田港のコンテナ取扱貨物量は前年比約4%減の約73千TEUであったが、実入りコンテナの輸出量は過去最高を記録した。輸出では「紙・パルプ」や「自動車部品」、「医療用機器」が増加した。
- 平成30年4月より秋田港駅と秋田駅を結ぶ「秋田港クルーズ列車」の本格運行を開始。専用車両として「あきたクルーズ号」を投入。令和元年は、クルーズ船の寄港等に合わせ期間中に計18日間の運行を実施。
- また、秋田県沿岸部の港湾区域および一般海域において、大規模な洋上風力発電事業の計画があり、その基地港として有力視されている秋田港では、風車の建設やメンテナンス時の投資に加え、新規雇用の創出が期待されている。

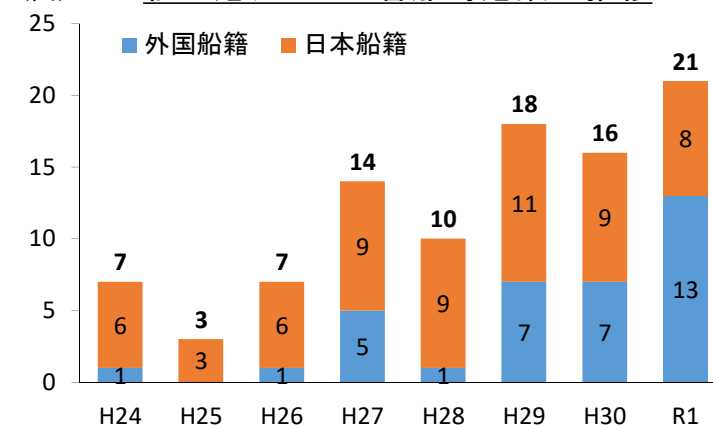
### 秋田港 コンテナ取扱貨物量



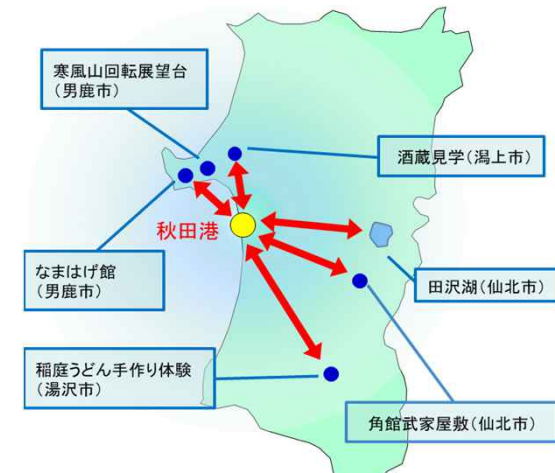
### 東北で初めて整備された「秋田港クルーズターミナル」



### 秋田港クルーズ客船寄港数の推移



### 整備が進む飯島地区岸壁(-11m)改良(耐震)



オプションツアー例

●秋田港港湾計画が平成30年6月に改訂され、ターミナルの拡張及び連続2バース化が計画に位置付けられた

5.6ha  
2バース化

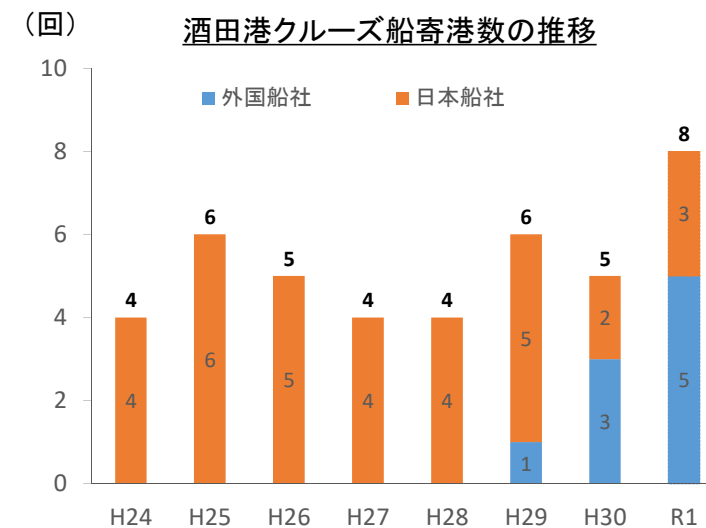
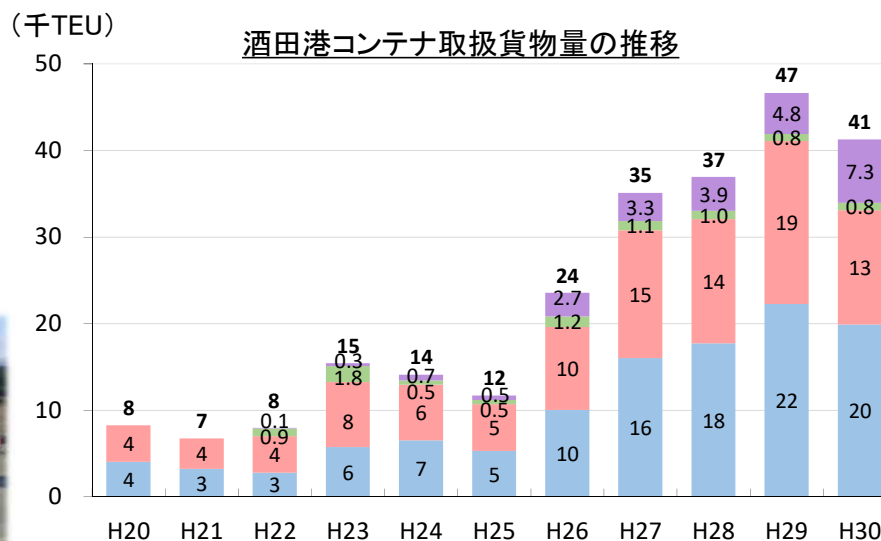
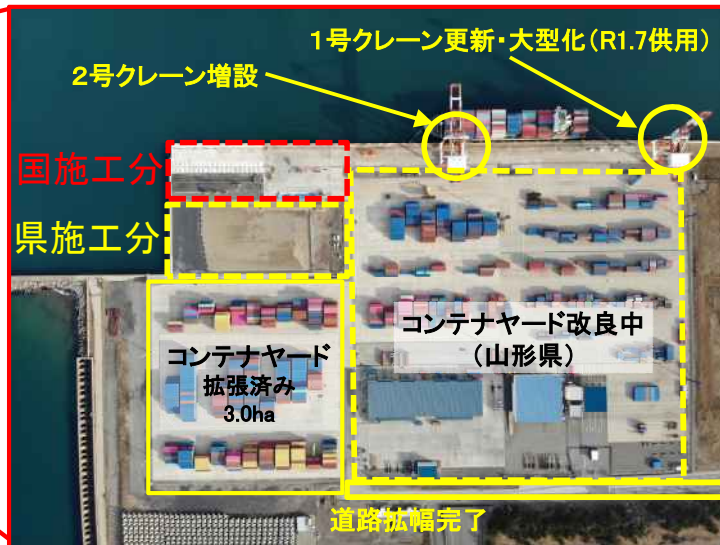
既設ターミナル17.0ha

<秋田港港湾計画>  
目標コンテナ取扱量…11.5万TEU/年  
(2030年代半ば)

# 地域経済を支える港湾整備の推進<酒田港>

○酒田港では、コンテナ貨物取扱量の増加に対し、荷役機械の更新やヤード拡張に加え、岸壁の延伸など施設整備を進めてきた。平成30年には岸壁延伸事業150mのうち112mが供用開始。ターミナル接続道路の拡幅も完了した。また、令和元年7月にはガントリークレーンの更新・大型化が完了し、岸壁の延伸も残りの38mの施工が今年度中に完了する予定。

○令和元年には過去最大船型となるMSCスプレディダ(13万トン級)を含め、外国船籍のクルーズ船が5回寄港した。その際、地元高校生らも含めた大勢のスタッフによる観光ガイド・おもてなしが大変好評であった。



出典: 港湾統計(年報)より。ただし、H30については港湾管理者聞き取りによる。



# 官民連携による民間投資を誘発する港湾整備<相馬港>

- 東日本大震災により大きく被災した沖防波堤は、平成30年3月に災害復旧事業が完了し、港内静穏度が大きく向上。
- 国及び県が民間事業者と連携し、大型LNG船の受入れに必要となる港湾インフラを整備することで、早期のLNG基地立地が実現。さらに、隣接地にLNG火力発電所が立地する予定であり、大きな投資の誘発や新たな雇用創出効果を発現。
- 令和2年2月18日相馬港クルーズ振興協議会が設立。協議会設立により、周辺地域の関係者が連携し相馬港へのクルーズ船誘致を図り、クルーズ船寄港を通じた地域振興・地域経済の発展につながる事が期待される。



## <大型LNG船受入施設の整備概要>

- 護岸及び用地造成**  
<福島県 整備>  
・平成26年7月着工～28年7月完了
- LNG船用棧橋(-14m)**  
<石油資源開発(株) 整備>  
・平成28年3月着工～29年9月完了
- 航路・泊地(-10m → -14m)**  
<東北地方整備局 整備>  
・平成27年10月着工～28年3月完了  
※浚渫土砂を埋立用材として活用

**相馬LNG基地**  
(石油資源開発(株))  
23万kℓ

**福島天然ガス発電所**  
(福島ガス発電(株))  
118万kW

タンク建設中 (23万kℓ)

25ha  
120万m<sup>3</sup>

**<相馬LNG基地>石油資源開発(株)**  
(平成29年11月完成)

- 施設概要
  - ・大型LNG貯蔵タンク1基 [23万kℓ]
  - ・ドックイン2バース [-14m・-7m]
  - ・パイプライン 他
- 建設投資：約600億円
- 新規雇用：約100人
- 操業開始：平成30年3月28日
- ※LNGタンク1基 (23万kℓ) 等、増設中

**<福島天然ガス発電所>福島ガス発電(株)**

- 施設概要
  - ・天然ガス火力発電 (118万kW)
- 建設投資：約1,200億円
- 操業開始：2020年予定 (2017年10月着工)

平成29年12月6日に入港した第1船のLNG船



## <整備効果>

- 民間事業者の大型投資を実現し、新たな雇用創出による地域の復興に寄与
- LNG基地の立地により、安定的な燃料供給と災害時に強いエネルギー輸送網を構築

<天然ガスパイプラインネットワーク図>

双方向パイプラインにより

- 天然ガスの供給安定性の確保
- 緊急時のセキュリティ確保

新潟LNG基地 新潟 相馬

山形 仙台 福島 郡山

接続パイプライン (約40km)

相馬LNG基地

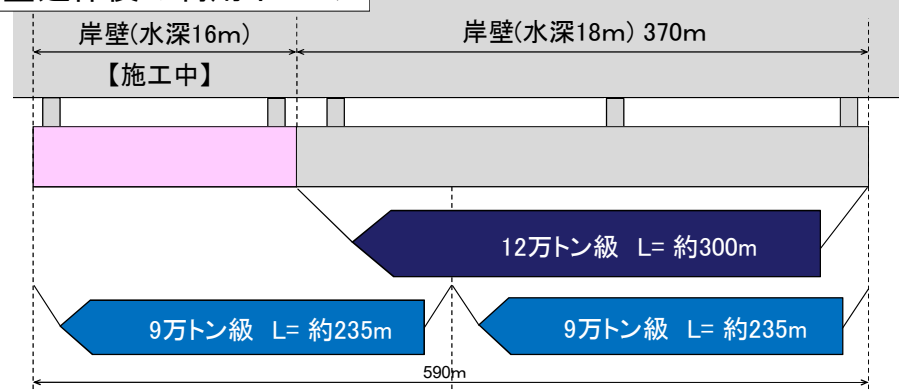
# 電力供給等を支える燃料供給基地の形成<小名浜港>

- 平成23年5月に国際バルク戦略港湾(石炭)に選定された小名浜港においては、大水深岸壁等の整備により、大型船舶による一括大量輸送を可能とし、東日本地域に電力供給を行う火力発電所等への燃料供給拠点としての機能向上を図っている。
- 小名浜港周辺では、最新鋭の石炭ガス化複合発電所(IGCC)2基が建設中であり、石炭取扱量のさらなる増加が見込まれている。
- また、岸壁背後の石炭ターミナルの整備・運営事業者として、「小名浜東港バルクターミナル合同会社(※)」が平成30年12月に発足。官民連携での効率的なターミナル利用に取り組まれている。 ※(株)IHI等からなるSPC(特別目的会社)

## 小名浜港東港地区 国際物流ターミナル事業概要



### 岸壁延伸後の利用イメージ



石炭需要増加に対応するため、9万トン級(ネオパナマックス)の石炭輸送船2隻の同時接岸が可能となるよう、岸壁(水深18m)の延長を有効活用した整備を行う。

### 臨港道路「小名浜マリブリッジ」:H29.3月完成

